

TOUHOU PROJECT FAN BOOK

PRESENTED BY
Yakumi-Sarai

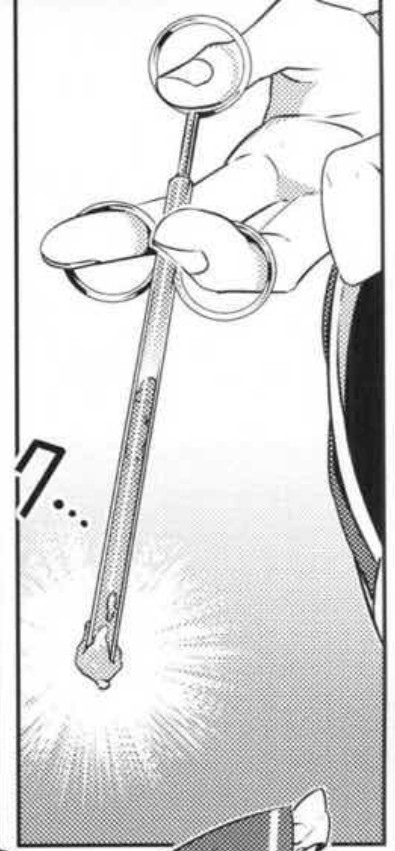
2017.03.26

カゼニモナレズ

カゼニモナレズ



この漫画は
東方Projectの
二次創作作品です



どうしたんですかその子

まさか狩ったんですか？
食べちゃうんですか？

なんだあんたか

勝手に入ってこないでよ

この前の嵐で樹から
落っこちてたのよ

見ないふりも
嫌だったから
面倒見てるわけ

それはそれは
お優しいことで

ふん わたしは
あんたらと違って
血の通った人間なの

せめて目の前の命
くらいは気に
かけるわよ

しかしまだ小鳥
ですからねえ…

このままでも
助かるとは
限りませんよ…

そうね…
まあそれはそれで
しょうがないわよ

そしたら…



やっぱり食べるん
でしよう？
丸揚げとか

食べよう
かしらね

串焼きも
良いかも

ええええええ!?



なによ
手を尽くしても
死んじやったなら
仕方がないじゃない

いやだからって
食べる普通？

情とか移ら
ないの!?

?

それはそれ
別の話でしょ

あ！

これでも外じゃ
ドライな方の
つもりだったん
だけどな！



ふふ…それに
です…

情の移った肉というのモ
オツな味でしてね…

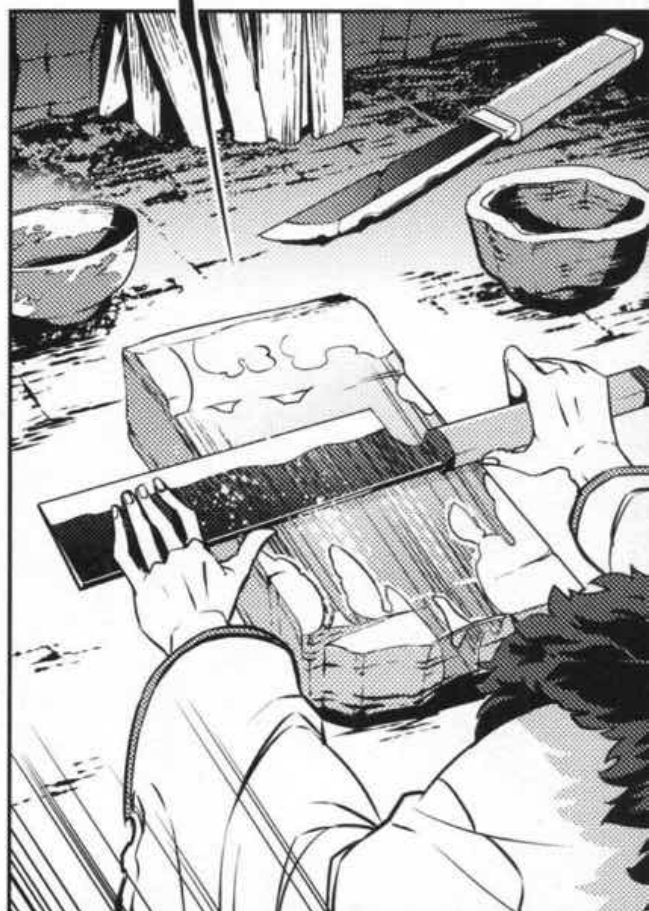
うわぁ

ズイ…



この前は人間なんて
攫わないって言って
おきながら……!







だから前にも
言いましたけど

里の人間に手を
出すのは我々に
とっても不利益な
事ですので…



わたしもその時は
納得したがな

でも今回は
証人がいるんだよ

見るからに天狗の
格好した妖怪が
子供を攫ったって…



まあ山にはそういう
装いの者もいますが…

あー…
そっぴやお前ら
「見るからに」な
格好してないな…

……見るからに？

いえ
それよりも……



私に任せて
ください



この件に少し
心当たりがあります

一昔前になる



嵐の夜に 里の外で倒れていた子供を助けたことがある





それ自体は別段珍しい事ではない ただ その子供は…



顔を…？

ええ……
ごっそりと

喋る事すら
ままならないわ

あれでよく命が
有ったものよ

しかし…

人間は自分達が思う以上に 外見で物事を判断する生き物だ
特に貌の有様は その人生を捻じ曲げ 形作る程にまで至る



それを失った
あなたはもう人の
社会には戻れない

……
人と認識されない

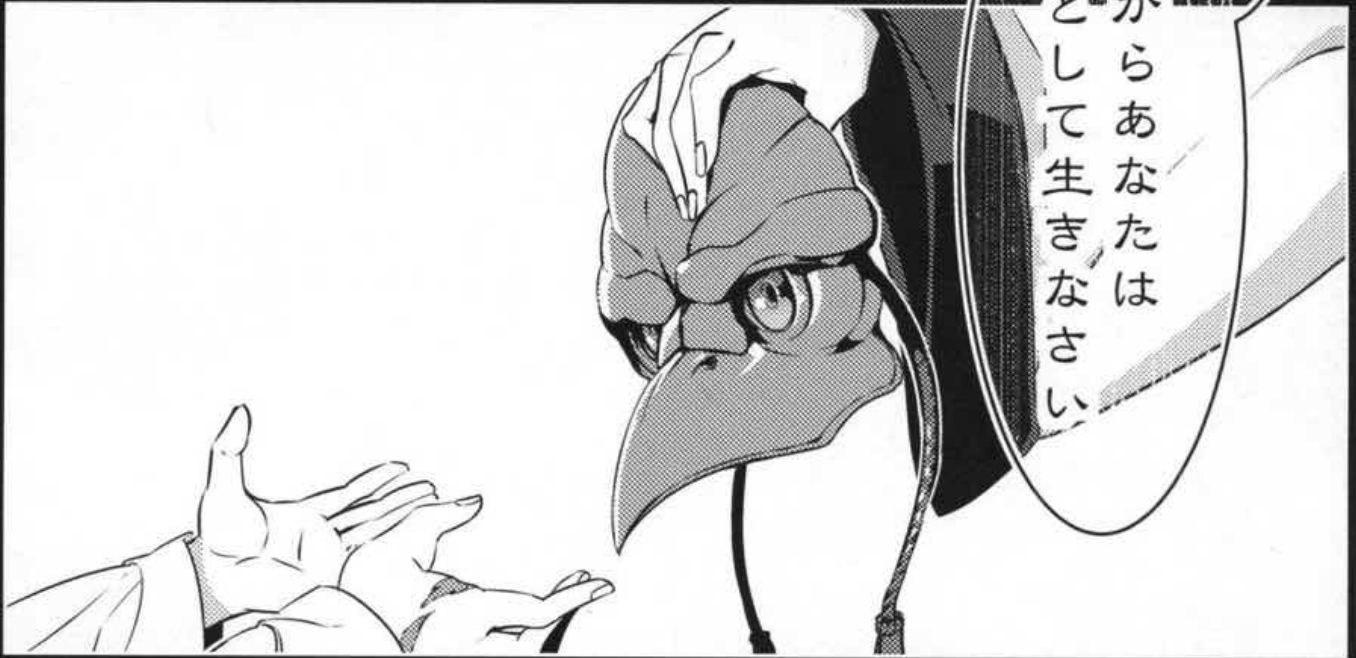
それがこの郷で
どういう
意味を持つか…

だから……



だから

これからあなたは
天狗として生きなさい



それに 余所者を
この山に住まわすなど...



しかしそれは
この郷の掟に
触れる事ですよ



相変わらず
お堅いわねえ…

人間としての
あの子は死んでも
同然なのよ

その命を拾うのなら
攻められる故には
ならないわ

屁理屈を…情でも
移ったのですか？



ふふふ…
情の移った肉と
いうのもオツな
味だけど…



残念ながら上からの
御達示なのよ
天狗として生かせ…と

その世話を
発見者の私に
押し付けたわけ

上が…？
何故わざわざ
厄介ごとを…



まったく…

お互い社会に仕える
身は大変よね

一緒にしないで
ください！



未だに昔ながらの
「天狗攫い」に固執する
老人達がいるって事よ



だけども あの子には見所があった





そう上手く
いくのかしら…

まあこの郷には
飛べる人間も
いなくはないけど

その子は私達と共に
空を飛ばなきゃ
いけないのよ

今の内に風に乗る感覚を
体に慣らしておかないと



まったく…
こんなのが特訓？
ただのイビリに
しか見えないわ



ちやちや入れない！
ほら またちゃんと
受け止めてよ！

ハイハイ



それにほら
もう次を
乞いてるわ

うわ本気？

そのお面でわかんないけど
ベソかいてたりしない？

あれだけの目にあって それでもなお 風を恐れなかったのだ



かだなきや…

かぜに…

うちかた
なきや…



そう あの子には見所があった そう 思っていたのだ…







あの子は風を恐れてはいなかった あの子は風を…



その夜 あの子は姿を消した



それにあの子に
帰るところなんて……



そんな形式ばかりに
こだわったって……!

そう上が
判断した以上
私には……

そもそも天狗攫いは
数年で元に還すのが
通例です



いいの？
探さなくて

いなく
なった……？





残念ながら眼も鼻も
効く狗が居てね…

だが事を
起こさなければ
見つかる事も

いや

探される事も
なかったのに…

あ…

あん…だは…







こちらも：
間に合わな
かったか：



どうやら人の肉を
求めざる負えぬ程には
変質したらしいが……



あなたは風を
恐れなかつた

その代わりに
風を憎んだ

自身をその様に
陥れた風を

うおおおおお……
かぜが……
かぜが……あ！



だから
成せなかつた

恐れも憎みも

等しく恐れ
へと変わる

畏れが神や
妖を産む

だがそれは
人の所業だ

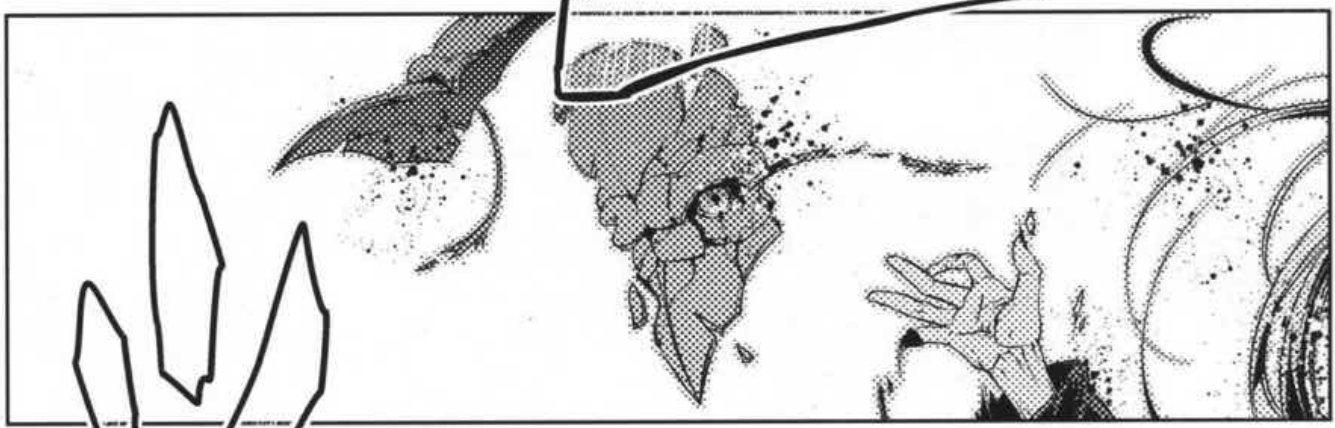
我らは違う

我らは畏れを
浴びる側だ

我らは風を
恐れず 憎まず

崇めず 仰がず
愛でもしない

ガセガセガセ





終わりましたか



しかし子供は残念でした
上はどう弁解するのでしょう
それにあの者をわざわざあなたに始末させるなんて…
あら 気遣ってくれるのかしら?
なに どうとでもなるわよ



ええ
貴方にも手間をかけたわね



……まさか……!!



なぜ我らが社会を作り
なぜわたしが内々に処理したか…
わかるでしょう?



新聞には真実しか
書かないと嘯いて
いるくせに……!!

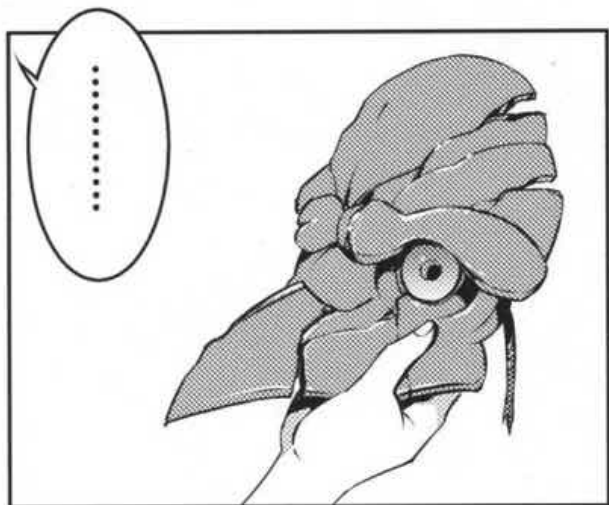


天狗に成り済ました
野良妖怪の犯行……という事で
上は手を打つてしょうね

それにこの様な事件を
起こした以上
巫女か賢者かの
制裁は避けられない

この手で引導を渡すのが
せめてもの親心よ

……!!



……



ヤレヤレ……



風を……そして我らも
憎んでいた筈なのに

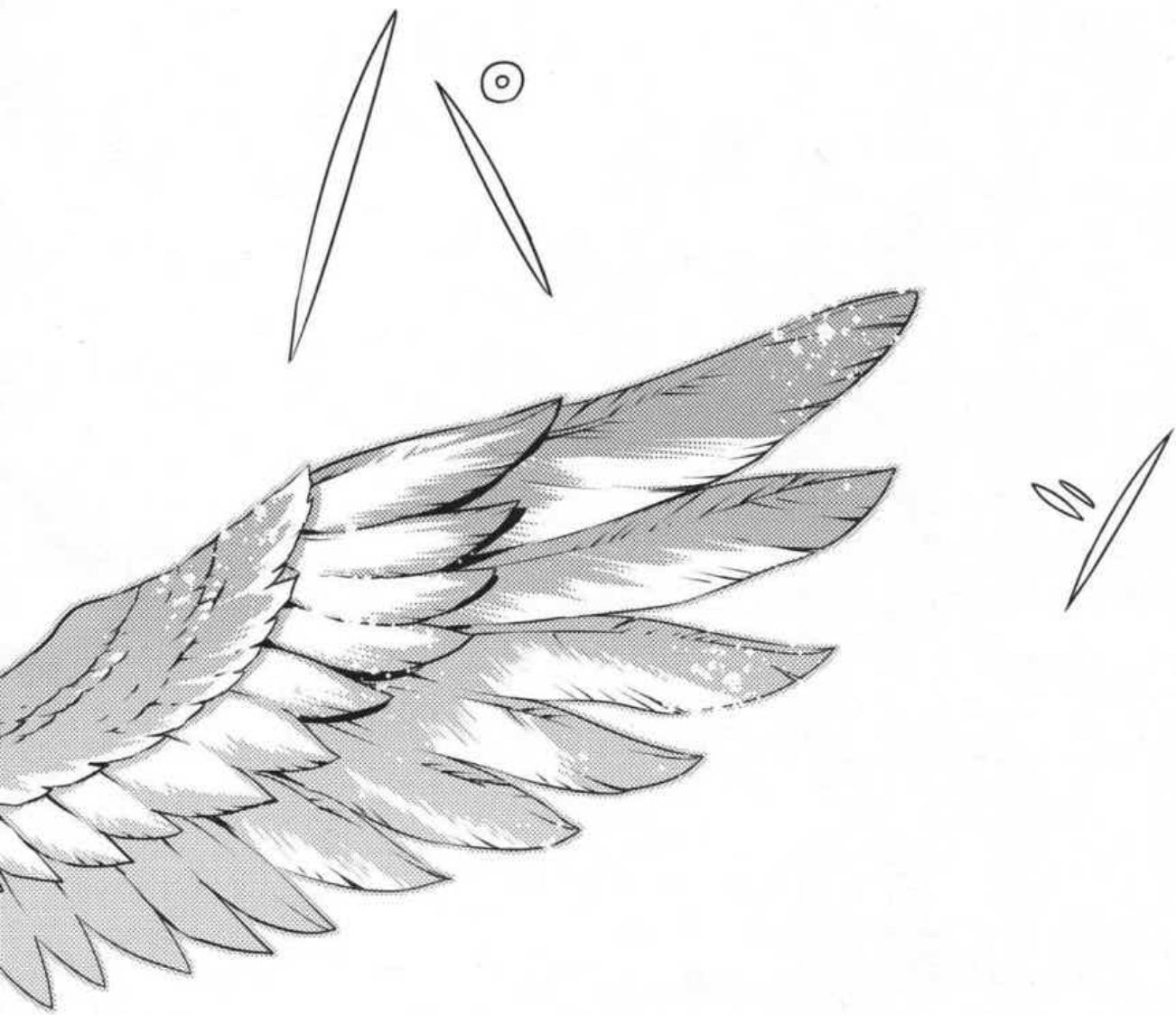
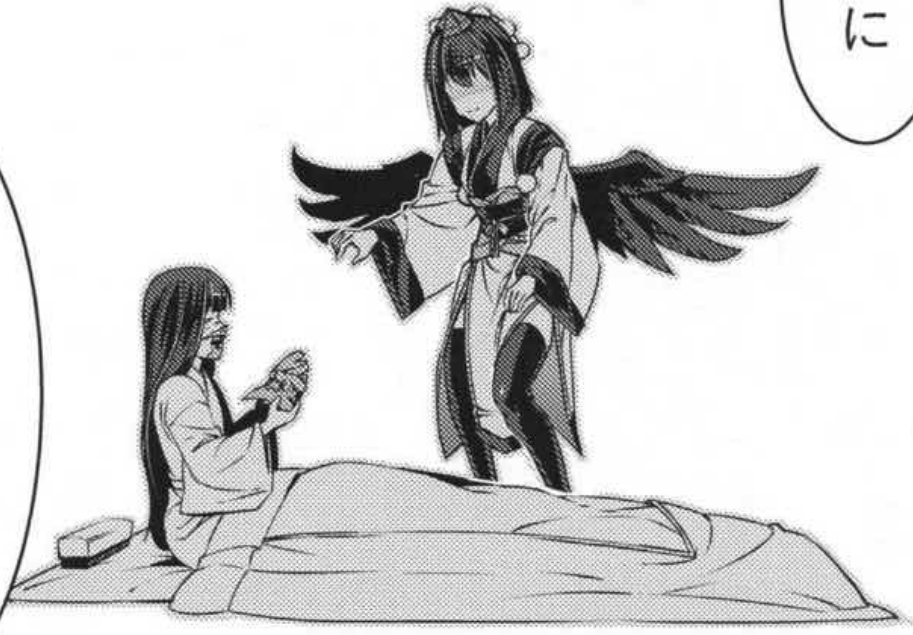
なぜ こんなモノを
ずっと……

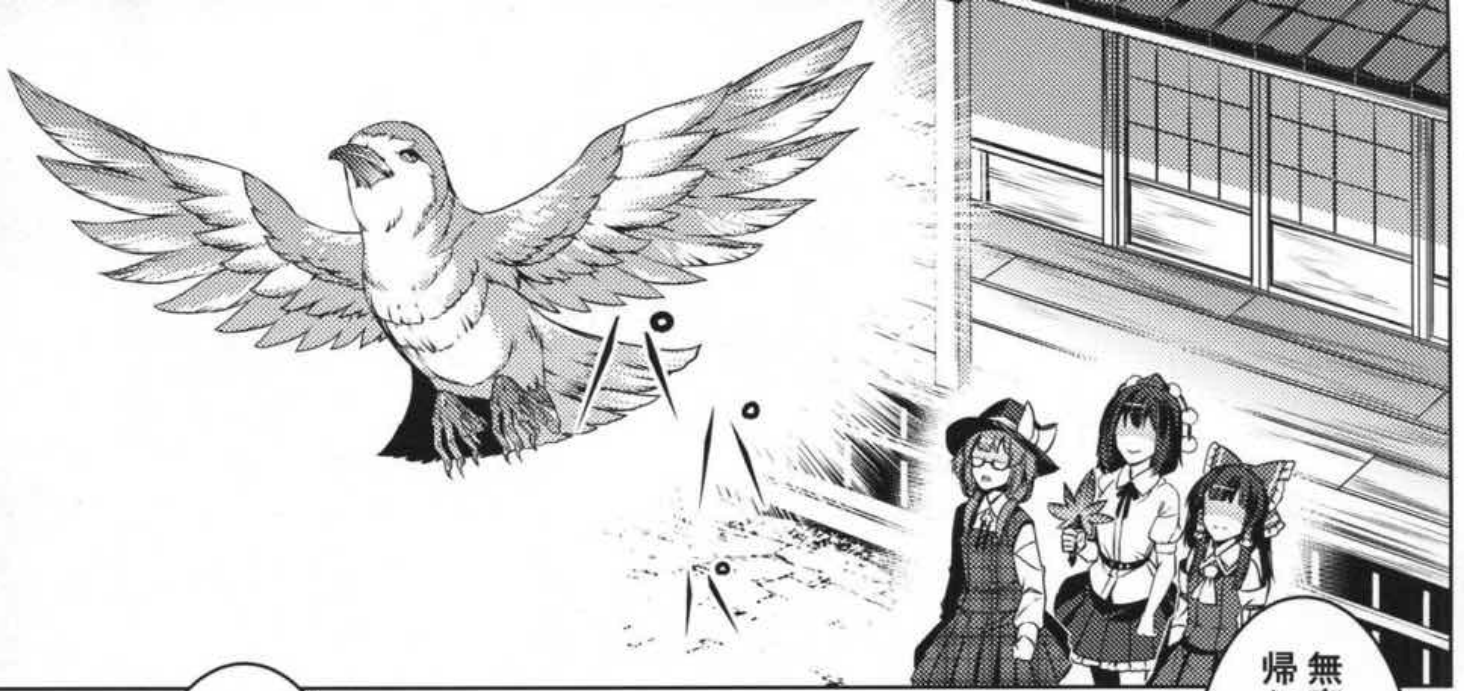


情が移るほど……か

なのに

ちっとも
美味くないわね





無事に
帰りましたか…

本当に
良かった…

食べられず
に済んで

ホ

ええ
良かったわ

結局 情は移らな
かったんですか？

つつい飼いたく
なっちゃったとか…

別に…

それに鳥は鳥らしく
空を飛んでいるのが
一番でしょ

他の生き物と
暮らしたって
倦むだけよ



全くです

いやはや

東方Project Fanbook

奥付 風ニモナレズ

2017年03月26日 東方合同祭事
天狗様のお仕事 8 発行

原作 上海アリス幻楽団 様

印刷 栄光印刷 様

サークル 葉味さらい

著者 ゾウノセ

<http://zounose.jugem.jp/>

pixivID 2622803

mail zounose@gmail.com

twitter [@zounose](https://twitter.com/zounose)

完

あとがき

24冊目になります。ゾウノセです。

新聞には（一応）裏打ちの取れる真実しか書かないと自称している射命丸ですが天狗社会の一員としては、上手く立ち回るために嘘も使い分ける器用さを持っているんじゃないかなー、という妄想から思いついたテーマです。

ストーリー的には鈴奈庵の嵐のエピソードが着想の元です。
あそこで妙にルールやら利益やらを強調したり
いつも以上に懇懇な態度の射命丸を見て、なにかしら裏がありそうだと
いろいろ邪推した感じです。
掟やルールという物はそれを利用したり裏で破ることを前提としてこそ
成り立つ物だったりしますしね。

今回は羽根つきのデザインで射命丸を描いたのですが
構図をとるのに邪魔で大変でした。絵的には間違いなく格好良くなるのですが。
常に広げっぱなしではなく、場面によっては畳めばよかったのかもしれませんが。

ではでは、次はいよいよ例大祭です。
純狐と諏訪子の本にしようとしてプロットを練っているのですが
描きたいネタが多すぎて逆にストーリーがまとまりません。どうしよう…。
ともかくまたお会いできましたら幸いです。





TOUHOU PROJECT FAN BOOK

風ニモナレス

PRESENTED BY
Yakumi-Sarai

2017.03.26

